

大学等名：神戸大学

テーマ：テーマⅣ（長期学外学修プログラム（ギャップイヤー））

「神戸グローバルチャレンジプログラム」は、1・2年生の1つのクォーターをギャップタームとして設定し、この期間に学生が国際的なフィールドで行う自主的な活動を正課のプログラムとして単位認定する取組である。平成28年4月から全学でクォーター制を導入することで可能となるギャップターム（「チャレンジターム」）の期間中に、学生が国際的なフィールドにおいて多種多様な学外学修に取り組むプログラムを、全学的に開発する。本取組として認められた学外学修は、「グローバルチャレンジ実習」として単位認定し、平成28年度からの新たな教養教育のカリキュラムへ体系的に組み込む。プログラム参加学生は「神戸スタンダード」が掲げる能力の必要性を体感し、「学びとは何か」を主体的に考え「学びの動機づけ」を得ることができる。本プログラムの実施により、課題発見・解決型グローバル人材の育成に向けた教育改革を加速させる。

### 神戸グローバルチャレンジプログラム

学事暦の工夫：クォーター制の導入

ギャップターム活用为例

4月	5月	6月	7月	8月	9月
前期					
第1クォーター		第2クォーター		夏季休業	
授業履修		チャレンジターム			
		事前学修		事後学修	

国際的なフィールドでの学外学修  
フィールドワーク、インターンシップ、  
海外サマースクール



【1～2年生】  
グローバルチャレンジ実習

入学時

主体的な  
学びの  
動機づけ

主体的  
な学修  
の促進



【3～4年生】  
留学等、  
更なるチャレンジ

チームワーク力

自己修正力

課題挑戦力

プログラム参加  
学生が最終的  
に身に付ける  
3つの能力を  
ルーブリックで  
測定

卒業時

水準3

水準2

水準1

水準0

### 神戸大学の教育改革

課題発見・解決型グローバル人材の育成

#### 神戸スタンダード

複眼的に思考  
する能力

多様性と地球的課題を  
理解する能力

協働して実践  
する能力

クォーター制導入

教養教育の改革

初年次セミナー導入

【事業の成果】

	26年度 (実績値)	27年度 (目標値)	29年度 (目標値)	31年度 (目標値)
長期学外学修プログラムに 参加する学生の割合	—	—	1.77%	2.53%
学生の授業外学修時間	5.5時間※	5.7時間	6時間	6.5時間
学生が企画する活動数	20件	30件	100件	150件

※平成25年度調べ

#### 本プログラムによる効果

- 1・2年生を対象とすることによる学びの動機づけ
- 学生の主体的な学修の促進
- 国際的なフィールドでの更なる活動にチャレンジする精神を育成
- 英語力の向上
- 学修成果を把握することによる新たな学修プログラムの開発

課題発見・解決型グローバル人材の育成に向けた教育改革の促進